

# 植え付け後の生育を良好にする 「花壇苗」生産培養土を開発

## 【背景・目的・成果】

花壇苗の商品価値として、消費者が植え付けした後も旺盛に生育することが重要であり、これに適した生産培養土が求められています。

そこで、植え付け先に応じた生産培養土を開発しました。

## 植え付け先別の推奨生産培養土の組成 ([ピートモス] - [マサ土] - [パーライト] の比率)

	プランター等の土 一般花壇の土	新規緑化の土
春夏苗 (ペチュニア、ニチニチソウ等)	40-40-20	60-20-20
秋冬苗 (パンジー、ハボタン等)	60-20-20	80-0-20

◆花壇苗の主な植え付け先として、プランター等の土(ピートモス主体)、一般花壇の土(壤土主体)、新規緑化の土(マサ土主体)に分類できます。マサ土主体の土は、植物が生育する土としては適当ではなく植え付け後の生育が劣ります。

◆生産培養土のピートモス比率は60%程度とするのが最も汎用的です。

秋冬苗やマサ土主体の土に植え付ける場合は、植え付け後の生育が遅いため生産培養土のピートモス比率を高め、苗の充実を図ります。春夏苗はマサ土比率を高め、徒長や水切れを防ぎます。

◆生産培養土のピートモス比率を高く、マサ土比率を低くするほど、出荷時の苗の草丈、生体重は大きくなりました。

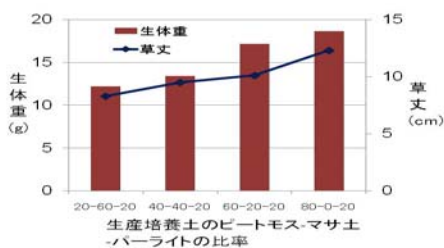


図1 生産培養土組成がニチニチソウの出荷時の生育に及ぼす影響



20-60-20 40-40-20 60-20-20 80-0-20  
ピートモス-マサ土-パーライトの比率

図2 生産培養土組成がパンジーの出荷時の生育に及ぼす影響

◆ピートモス比率が高い生産培養土で育成した苗の方が、マサ土へ植え付け後も生育が良好でした。

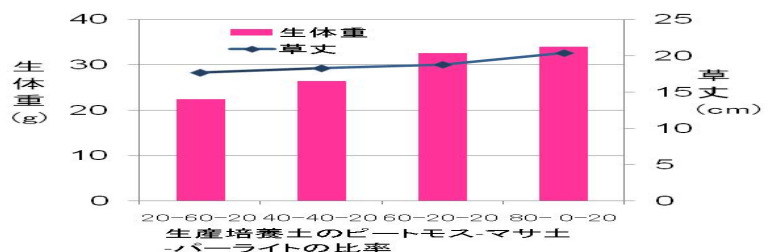


図3 生産培養土組成がニチニチソウのマサ土への植え付け1か月後の生育に及ぼす影響



20-60-20 40-40-20 60-20-20 80-0-20  
生産培養土のピートモス-マサ土-パーライトの比率

図4 ニチニチソウのマサ土への植え付け1か月後の生育の違い

【技術の活用】花壇苗生産者は、専門店や造園業者等の出荷先に応じて生産培養土を変えることで、植え付け後の生育が良い高品質の苗を出荷することができます。また、商品特性等の表示、PRを適切に行うことで、付加価値の高い商品として流通を目指します。